

滴一滴

金の延べ棒にブランドの時計やバッグ……。壁一面に大きな写真を張った買い取り専門店が増えている。実家にある焼き物や着物を持ち込んだら、どれくらいの値段がつくのだろうか、ふと思う▼先日、消費者教育に取り組む川崎医療福祉大の学生ボランティア「吉備団」の模擬講座を見る機会があった。テーマは買い取りを巡るトラブルだった。学生が高齢の売り手と業者に扮して寸劇を披露した▼売り手は不用品を売ろうと自宅に業者を呼ぶ。査定額が期待に届かず、がっかりしていると「アクセサリはありますか」と尋ねられる▼そこでネックレスを見せたところ、業者の目の色が変わった。結局、本意ではないのに売ることになった。後で調べたら、業者の提示額は相場よりかなり安かったという話だ▼この時の売り手の心理について、学生たちの解説が興味深かった。アクセサリの有無を問われて「うそをつきたくない」という気持ちから、売るつもりのない品まで見せてしまう。それが落とし穴になるという。話を続けるうちに、売るのを断りづらくなっていく。悪質な「訪問購入」の手口である▼きっぱりと断るのは想像以上に難しい。寸劇を見て、そう感じた自分も被害に遭いやすいタイプだろうか。善意につけ込まれないようにしなければ。「いい人」ほど注意した方がよさそうだ。